

社会インフラを巡る現状

我が国の社会インフラを巡っては、老朽化の進行による点検需要の増大、地震・風水害等の災害への備えが喫緊の課題であり、更に人口減少・少子高齢化等による労働力の減少によって、その対応が今後一層困難となることが予想される。

5つの重点分野

I 維持管理

① 橋梁

- ・近接目視を支援
- ・打音検査を支援
- ・点検者の移動を支援

② トンネル

- ・近接目視を支援
- ・打音検査を支援
- ・点検者の移動を支援

③ 水中(ダム、河川)

- ・近接目視を代替・支援
- ・堆積物の状況を把握



II 災害対応

④ 災害状況調査

- (土砂崩落、火山災害、トンネル崩落)
- ・現場被害状況を把握
 - ・土砂等を計測する技術
 - ・引火性ガス等の情報を取得
 - ・トンネル崩落状態や規模を把握

⑤ 災害応急復旧 (土砂崩落、火山災害)

- ・土砂崩落等の応急復旧
- ・排水作業の応急対応する技術
- ・情報伝達する技術



施策の概要

社会インフラを巡る課題解決のため、

◆ 効率的な『点検ロボット』

◆ 迅速且つ的確な災害状況を把握又は応急復旧に資する『災害対応ロボット』について、

・ロボット技術を民間企業等から公募

・関係省庁及び産学官の協同体制の下、直轄現場において実際の作業を想定した現場検証・評価

・評価結果を踏まえて、実用性の高いロボットの開発・改良を促進

・併せて、直轄で試行的に導入し、その普及を図ることで、より効率的な維持管理、及び、より迅速で的確な災害対応を実現する

